

第2学年 英語科学習指導案

日 時 平成17年10月12日(水) 5校時
場 所 釜石市立釜石東中学校
学 級 2年B組 (男子15名、女子15名)
授業者 T1 齋藤 真(JET)
T2 ソフィア パンティネン・ニュートン(ALT)

1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States : Starting Out
(NEW HORIZON English Course 2)

2 単元について

(1) 教材観

この課は、話題や場面としてホームステイを取り上げている。前半は、ホームステイの心得のアドバイスや初めて体験するベッドメイキングについての対話に始まり、後半は、ホームステイに来ている生徒からの相談とそれに対する先生の応答という形になっている。ホームステイは、大部分の生徒にとってあまり身近ではないが、憧れを持っている生徒は多い。ただ、ホームステイというと文化的交流よりも言語の違いに対する恐れに目が行き過ぎているため、関心が低いと思われる。そこで、「完璧ではなくても話そうとすること」、「違いを恐れず、違いに触れようとする事」等の大切さと、それらを通じて初めて広がる異文化理解という視点でホームステイを考えさせたい。本単元は、生徒にそのような視点を培うために最適の内容である。自国と他国の文化的・習慣的相違を学ぶ機会とすると同時に、国際社会で通用する人間として必要な資質とは何かということも考えさせたい。

言語材料としては、have(has) to、未来のwill、must が取り扱われている。どれも自分の意志を表す能動的表現に結びつく言語材料である。自分を表現したいという意欲が、「自分の意志を、英語を使って話すことができる・書くことができる」という実践的コミュニケーションにつながる単元である。

(2) 生徒観

英語学習に対する関心は高く、新出単語や新出文法に対する食い付きも非常に良い。ライティングよりもリーディングに関心が高い。空白の時間をつくらず、授業時間をフルに活用しようとする姿勢があり、互いに高め合う「教え合い学習」にも意欲と目標を持って取り組んでいる。また、授業外においても、既習の英語を使って生徒同士でコミュニケーションしようとする姿勢があり、言語を本来的な意味で正しく運用している場面も見られる。

英語だけではなく、どの教科に対しても積極的に取り組む姿勢があり、知的欲求が高い生徒が多い。教室の中には、良い意味での競い合いもある。互いに切磋琢磨して学級全体の学力レベルを上げようという目標を持って学習に臨んでいる。今年度、家庭学習は、自分達で2H3P(1日2時間ノート3ページの家庭学習)と設定し、ほぼ毎日全員が達成しているというのが現在の状況である。

ただし、今年度実施したNRTの結果から考察すると、学習に対する姿勢(実態)と結果(習得状況)がうまく結びついていないことが分かる。学級の偏差値は45.8であり、女子は6.2ポイント男子を上回っている。段階別に見ると、「2」の段階が40%と非常に多く、下位層の生徒が多い。授業の中で、能力差が顕著に見られる場面もあるので、今年度は「教え合い学習」を重点

に置いて授業を行ってきており、生徒もその必要性和効果を強く感じている。

領域別では、4領域ともに全国比100を下回り、特に「読むこと」・「書くこと」の表現の部分が弱い。よって、実践的コミュニケーション能力を高めるため、新出・既習事項を織り交ぜて活用しながら、一単位時間の中に必ず自己表現（自分について話す、自作文をつくるなど）の場面を設定し、生徒の力を高めていきたいと考えている。

これまでの学習は、事前の部分については、今年度予習を徹底させている。本文の視写、新出単語の意味の確認と書き取り練習、本文の意味の推測等、3つを課している。授業においては、「読むこと」・「書くこと」の表現に重点を置き、既習事項を多く盛り込みながら補完も兼ねた授業を心掛けてきている。事後については単元末に細かく小テスト（単語テスト、表現テスト、プラステスト）を行ってきており、復習と振り返りを大切にしてきた。年度当初は、大きな負担に感じる生徒も多かったが、現在は慣れてきて、ある程度の目に見える成果も出せるようになってきている。

（3）指導観

本校英語科では、今年度、『「話す」、「書く」領域の表現指導を重点的に行う』と『生徒の興味関心を引き出す、効果的な学習課題の提示を工夫する』を重点として、指導に取り組んできている。

今回は、3つの新出言語材料の形・意味・用法が、類似と相違（be going to と will, have to と must、または、don't have to と must not）と、主語による動詞の変化（I have to と She has to）という特徴を持っているため、やや混乱を招くことが予想される。それぞれ系統立てて違いを明確に理解させることで、区別をしっかりとつけさせたい。

特に have to については、have（持っている）の意味との混同、読み方（ハフトゥ、ハストゥ）、主語による have, has の使い分け、疑問文、否定文にする際の変化の仕方、など、気をつけなければならない点が多い。一度全体の大まかな概要を理解させ、パターンプラクティスを繰り返していく中で定着を図る方法をとりたい。

この単元は、前述したとおり、自己表現するのに適した言語材料をたくさん扱った単元である。基本的な文を繰り返し練習することで新出言語材料の定着を図り、それをベースとして自己表現に結び付けていきたいと考えている。授業の中に、「自分について話す」、そして「自分について書く」という活動を設けることで、生徒の意欲を引き出しながらスモールステップの成就感を持たせ、最終的に自然な言語習得に辿り着かせたい。

3 単元の指導目標

【 コミュニケーションへの意欲・関心・態度 】

- ・ 助動詞類（ have to , will , must ）を含んだ表現を進んで発表したり、話したりしようとする。
- ・ 積極的に言語活動に取り組もうとする。

【 表現の能力 】

- ・ 助動詞類（ have to , will , must ）を適切に使い、英語で話したり、書いたりすることができる。
- ・ 自分の意志を、率直かつ丁寧に伝えることができる。

【 理解の能力 】

- ・ 相手の話す英文を聞き取ることができる。
- ・ 英文を読んで、その意味をつかむことができる。

【 言語や文化の知識・理解 】

- ・ 助動詞類（ have to , will , must ）それぞれの形・意味・用法を理解し、表現できる。
- ・ 生活習慣、礼儀、マナーの違いを学ぶことを通して、コミュニケーションの基本的態度について考えることができる。

4 単元の評価規準

パート名	到達目標	観点別学習状況の評価規準			
		コミュニケーション能力への関心 意欲、態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化 についての 知識、理解
Starting Out	言語 have to, do not have to を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の音読を意欲的に取り組もうとする。 ・新出言語材料を用いて自己表現しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ have to, do not have to の意味、用法を理解し、自分がしなければならないことを言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ have to, do not have to の意味、用法を理解し、聞いたり、読んだりして、その意味を言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ have to, has to の使い分けや読み方について理解できる。 ・ do not have to の意味、用法が理解できる。
Dialog	言語 will を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の音読・ロールプレイ、暗唱を意欲的に取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を表す助動詞 will を用いて、未来において自分がすることについて言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を表す助動詞 will の意味、用法を理解し、聞いたり、読んだりして、その意味を説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平叙文でも語尾の語調を上げて尋ねることもできることを理解できる。
Reading For Communication	<p>言語 相談とそれに対する助言を読んで、内容を理解できる。</p> <p>言語 must を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。</p> <p>言語 苦情とそれに対する忠告を読んで、内容を理解し、また、本文を参考にして、日本に来る外国の人への簡単な助言・忠告ができる。</p> <p>言語 must not を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の音読を意欲的に取り組もうとする。 ・文化の違いを理解し、自分ならどうしたらよいか、興味をもって積極的に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞 must の意味、用法を理解し、自分がしなければならないことを言うことができる。 ・ must not の意味、用法を理解し、してはいけないことを言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞 must の意味、用法を理解し、聞いたり、読んだりして、その意味を説明することができる。 ・ must not の意味、用法を理解し、聞いたり、読んだりして、その意味を説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誠意を込めて「率直かつ丁寧に」自分の意思を伝えることの大切さを知ることができる。 ・ホストファミリーの一員とはどういうことか理解できる。 ・自分がどのような態度で、ホームステイを行ったらよいか知ることができる。

5 指導と評価の計画 (6時間扱い)

本時は太枠部分

パート と 時間	学習活動	評価規準を達成するための具体的評価基準			評価方法
		十分満足できる A	概ね満足できる B	努力を要する生徒 への支援の手立て C	
Starting out 1.5 本時 1/1.5	伝言リレー 条件作文 自作文 スピードラ イティング 内容把握	コ have to, don't have to の表現を用いて、進んで発 表しようとする。	have to, don't have toを使 う場面が分かり、発表しよう とする。	have to, don't have toの 意味や使い方を確認させ、発 表できるよう練習させる。	条件作文の発 表、自作文、 本文の読み取 り場面。(発 表・ワークシ ート・観察・ 自己評価カー ド)
		表 場面に応じて have to, don't have to を用いて話 したり、書いたりするこ とができる。	have to, don't have to を用 いて話したり、書いたりする ことができる。	ターゲットセンテンスの 意味が分かり、読んだり書い たりすることができるよう に反復練習させる。	
		理 本文の内容やホームス テイの心得を理解するこ とができる。	本文の内容を理解するこ とができる。	本文の内容を理解させ、言 おうとしている内容をつか ませるようにヒントカード を出す。	
		言 have to, don't have toを 用いた文の形・意味・用法 を理解し、積極的に表現で きる。	have to, don't have to を用 いた文の形・意味・用法を理 解し、身近なことを表現でき る。	have to, don't have to を 用いた文の形・意味・用法を 理解させるために、反復練習 を行う。	
Dialog 1.5	対話練習 自作文(ペア) スピードラ イティング 内容把握	コ will を用いた文を理解 し、対話をしようとする。	will を用いた文を理解し、 簡単な対話をしようとする。	will を用いた文を理解さ せ、簡単な英文を作れるよう 援助を行う。	対話練習、ペ アでの自作文 作り、発表の 場面、本文の 読み取り場 面。(発表・観 察・ワークシ ート・自己評 価カード)
		表 場面に応じて will を用 いて話したり、書いたりす ることができる。	will を用いて話したり、書 いたりすることができる。	ターゲットセンテンスの 意味が分かり、読んだり書い たりすることができるよう に反復練習させる。	
		理 本文の内容を理解し、積 極的に発表できる。	本文の内容を理解するこ とができる。	本文の内容についてアド ヴァイスする。	
		言 will を用いた文の形・意 味・用法を理解し、それを 用いて対話ができる。	will を用いた文の形・意 味・用法を理解し、それを 用いて簡単な対話ができる。	will を用いた文の形・意 味・用法を理解させるため に、反復練習を行う。	
reading for communication 3	習熟度別本 文読み取り シート 条件作文 自作文 意見交換 スピードラ イティング T or F	コ must, must not の表現 を用いて、進んで発表しよ うとする。	must, must not を使う場 面が分かり、発表しようとし る。	must, must not の意味や 使い方を確認させ、発表でき るよう援助する。	読み取りシー トの取り組み 場面、条件作 文の発表、自 作文、意見交 換の場面、内 容の確認。(読 み取りシー ト・発表・発 言・観察・自 己評価カー ド)
		表 単語の発音に注意し、文 の抑揚に気をつけて音読 することができる。	本文の音読ができる。	一つひとつの単語の読み がきちんとできるよう、援助 しながら反復練習を行わせ る。	
		理 本文の内容を理解し、内 容に関する質問に積極的 に答えることができる。	理 本文の内容を大まかに とらえることができる。	本文の内容を理解するた めのヒントワードを提示し、 理解の援助をする。	
		言 意志伝達的重要性、ホス トファミリーの役割につ いて理解し、自分の考えを 言うことができる。	意志伝達的重要性、ホス トファミリーの役割につ いて理解することができる。	意志伝達的重要性、ホス トファミリーの役割について 日本語で教え、理解の一助と する。	

6 本時の指導

(1) 授業の構想

導入部では、英語学習の雰囲気作りとしてウォームアップに Jazz chants , Model dialog を通して新出言語材料の導入を行う。必然性が伴う場面を設定することにより、下位層の生徒にも have to のイメージ化が容易になるよう工夫した。また、Dialog から Repetition につながる流れをつくることで、自然な理解とともに参加意欲を高めることができるのではないかと考える。

展開部では、表現リレー（個人・「話す」と「聞く」）、単文作文（グループ・「話す」）、自作文（ペア・「書く」）と3つのアクティビティを取り入れた。内容や形態にできるだけ変化を持たせることで、生徒の緊張感と期待感を高めたまま授業を進めていきたい。前半・中盤に口頭練習を多くすることで、中・下位の生徒に配慮したい。最後の自作文では、ペア（教え合い学習）で取り組むことにより、相互のレベルアップを図りたいと考えている。自作文は、presentation の場面を持つことで、本来の言語の機能を生かす形で閉めたいと考えている。

終末部では、Speed writing を行う。徹底した Target sentence の定着を目指しての活動である。最後に、「話せた、書けた、覚えた」という3つの成就感を持たせ、今後のさらなる意欲につなげたいと考える。

(2) 目標（本時のねらい）

【 コミュニケーションへの意欲・関心・態度 】

- ・ have to , has to を用いて、自分の言いたいことを表現しようとする。

【 表現の能力 】

- ・ have to , has to を用いて自分が表現したい文を話したり、書いたりすることができる。

【 理解の能力 】

- ・ have to , has to を含んだ英文を聞いて、日本語に訳することができる。

【 言語や文化の知識・理解 】

- ・ have to , has to の使い分けができる。

(3) 本時の評価

5の太枠部分を参照。

(4) 展開

段階	学習活動	教師の活動・支援()		指導上の留意点(・) 評価(○)、教材()
		T1(JET)	T2(ALT)	
導入 7分	1.Warm up Speaking Plus 1 の Jazz chants を行なう。 2.Model dialog and Q&A and repetition of new grammar 教師の英語での Model dialog を聞く。話していた内容の確認をする。「読む」練習を行う。	Jazz chants を忘れていた生徒、本文を忘れていた生徒を支援する。 Model dialog を演じる。 質問が分からない生徒にヒントを与えて支援する。 新出言語材料の意味を予想させる手助けをする。 新出言語材料を用いた英文を繰り返し読む。	Jazz chants の指示を出し指導する。 Model dialog を演じる。 Model dialog に関して質問をする。 新出言語材料を用いた英文を繰り返し読む。	・英語の授業の雰囲気をつくる。 ・Jazz chants を通じて、既習文を音読することで再度定着を図る。 ・Model dialog のQ & A から新出文法の導入、そして Repetition とスムーズに流れるようリズム良く行う。 ・Model dialog のアプローチは身近な話題で。 ・発音が「ハブトゥ、ハズツウ」にならないように注意を促す。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>学習課題 have to , has to を使って作文できるようになるう。</p> <p>Target sentence : I have to study English tonight.</p> </div>			
展開 38分	3.Check the new grammar 『 have to , has to 』の用法について学ぶ。 4.Relay with using the new grammar 各自 『 have to , has to 』を用いた文をつくり、列ごとに伝言リレーを行う 5.Contextualising the sentence 班グループごとに別れ、与えられた条件下で「しなければならぬこと」を考え、各班ごとに発表する。 6.Students formation of sentences 『 have to , has to 』の文を含んだ自由作文に取り組み。 7.Presentation 自由作文を発表する。	学習課題を確認する。 『 have to , has to 』の用法について簡潔に説明する。 つくれない生徒を支援する ルールが分からない生徒の補助をする。 説明の意味が分からない生徒を支援する。 各班に発表を促す。 『 have to , has to 』の文を含んだ英文を3文以上5文以下で作文するよう指示する 「教え合い」の形でできていないペアの支援をする。 自由作文を添削する。 自由作文の発表をさせる。	学習課題を提示する。 今日の Target sentence を読む。 Activity の説明をし、作文の手助けをする。 Activity の説明をする。 条件 地震 学校 火事 人生 雨 寝る前 各班の発表に関わって評価をする。 『 have to , has to 』を用いた文以外の文をどのように書けばいいのかわからない生徒を支援する。(答えではなくてヒント) 自由作文を添削する。 発表に関する評価をする。	○新出言語材料の形・意味・用法を理解できたか。(知・理) 新出言語材料を用いて、正しい文章を言うことができたか。(表現) ピクチャーボード 新出言語材料を用いて、条件をもとに文を作ろうとしたか。(意・関心) ・新出言語材料の用法の正しさを優先し、単語や語彙の間隙いまで言及しすぎない。ただし、正答は示す。 ・教え合い学習の充実、辞書の有効活用を生徒に促す。 新出言語材料を正しく用いて、書きたい文章を書くことができたか。(表現) 進んで発表しようとしたか。(意欲・関心)
	8.Today's summary Target sentence の Speed writing をする 自己評価カードに記入する。	スペルミスやピリオドの落としなどを個別にチェックする。 自己評価カードの記入を観察する。	Speed writing の指示を出す。 スペルミスやピリオドの落としなどを個別にチェックする。 自己評価カードの記入を観察する。	自己評価シート ・意欲付けとして目標を与える。 EX. 「1分間で10文以上書くことができたら達人」
5分				

Script for Demonstration (Model dialog)

Dad : Hi, Sophia.

Sophia : Hi, Daddy.

Dad : Did you study English last night?

Sophia : No, I didn't. Why?

Dad : I met Mr. Ishiyama(principal) at the station . And he said to me,

“ Our school are going to have an English test tomorrow.”

Sophia : Oh,my God! I forget about that!

I have to study English tonight. Thank you, Dad!